

会議名 第40回ニセコ町観光戦略会議

開催日 平成26年5月8日	会議時間	開会 PM 6:30 閉会 PM 8:00
会議場所 ニセコ町役場 第二会議室	記録者	商工観光課観光戦略推進係 係長 齊藤 徹
出席者 委員：渡辺委員、大久保委員、片岡委員、服部委員、関委員、 木下委員、葛西委員 事務局：前原商工観光課長、齊藤観光戦略推進係長、淵野観光圏推進係長、 ポール主査 ニセコ町長 片山 健也		
欠席者 委員： 加藤委員、樫原委員、吉村委員、瀧澤委員、宮崎委員、北島委員、		

～会議日程～

- ・報告事項
観光パンフレット・マップについて（完成版配布）
- ・町長と意見交換
「観光戦略会議と町長の観光戦略について」

【主な内容】

◇最初の町長からの話

- ・このような会議は年に1回の開催では意味が無く、観光は日々動いており、戦略会議はスピード感が大切。
- ・ニセコエリアのグランドデザインが必要→観光局、観光圏
- ・ニセコへ着てからのメニュー。特に50代以上の方がやることが無い。フットパスや文化交流など。
- ・ビュープラザから中央倉庫（ものづくりの拠点へ）～有島～東山（ミルク工房）の流れを考えると昆布・モイワが弱い
- ・行政主導で何かを仕掛ける時代ではない。国庫補助などを利用した基盤整備を行政が行い、運営は観光協会や民間が行うのが当たり前の形。小さな政府を目指す。
- ・地方交付税が減額される流れになってきている。道州制などの押し付けにより地方にしわ寄せが来る時代が来る。地域の金を地域でまわす里山資本主義へ。

◇委員からの意見

《広域パンフレットなど》

- ・蘭越ニセコ倶知安の3町で統一パンフが欲しい。同じニセコエリアなのにそれぞれの行政区域を跨ぐ度に案内を別々のパンフで行うのが非効率。
- ・3町それぞれ文化も人も異なり、それぞれが異なるのが逆によさでもある。それぞれのパンフがある上で共通するものを別に作ればいい。全て一緒にするべきではない。
- ・エクスプレスも当初はページ割り当てで何の意味も無かったが、途中からカテゴリ

別になって横断的な情報が取れるようになった。しかし、そろそろコンパクトなものでエクспレスに変わるものの検討も必要では。

→フリーペーパー化なども視野に。

- ・パンフレットは予算が無いから作れないではない。
- ・掲載している情報が多すぎる面もある。ガイドブックになってしまいがちである。
- ・全山を人目で分かるようなMAPが欲しい。そこにはグレンデ情報も店もホテルもなだれ情報も網羅されたような。
- ・倶知安との連携はこれからも続けていくのか。

→広域でやったほうがいいものもあるし、特化すべきものもある。商店などは難しいが観光は必要。

《観光協会と観光担い手について》

- ・観光協会で観光事業者が全て集まるような会がない。株主からだけではなくもっと観光事業者の意見を聞くべき。
- ・商工会の観光部会がもっと機能すべき。
- ・ペンション経営者の高齢化も進み、後継者不足が問題。
- ・イベントの運営基盤である事務局が個人で背負い込んでしまう傾向にある。すパソコンや英語などのスキルも必要だがうまく雇用が生まれるような仕組みになれば。
- ・ニセコエリアで働いている人の賃金が安すぎる。道の最低賃金を上回っていればいいというものではないのでは。本州の人にしてみれば驚くほどの安さである。

《観光開発について》

- ・まだ観光開発する土地は余っているが、治安の悪化や飲食店などのキャパシティを考えると、そろそろベッド数の上限を考えてもいい時期では。
→まだニセコではベッドコントロールするほどの計画は無い。カペラができて大丈夫。
- ・開発には水源の確保も重要。モイワには水が無い。水道の整備を考えると多額の投資になる。

《ニセコの観光全般について》

- ・長期滞在メニューが必要。ニセコには芸術家がたくさん居て、生活のために活動をしている。アート教室などをやることもできる。
- ・有島のサフォーク牧場がもったいない。建物がまだ使える。
- ・何事かを仕掛ける場合は、何事も循環していないと膿がたまることになる。自然環境も経済もうまく循環すればいいのだがニセコではまだなされていない面が多い。
- ・食の安全はとても大切で、食べられて健康であってはじめて観光がある。
- ・「ニセコ」のネームバリューはとても大きい。「ニセコ」とつくだけで商品の売れ行きも違う。

・その他

任 期 平成26年6月20日まで

次回日程 平成26年5月27日（火）予定